

# を目指して ~ 秋田市自転車利用環境に関する提言 ~

## 本市における自転車環境の現状

### 自転車事故

- ・秋田市における自転車の事故は、出会い頭の事故と交差点での右折事故が多い
- ・自転車対車両事故死傷者数の増加

### 通行ルール・取締り

- ・自転車利用者のマナー違反者の多さと、それによる事故の発生
- ・自転車利用者のルールの認識不足  
(道路交通法の改正 H20.6.1施行)

### 自転車利用の特徴

- ・自転車利用は駅周辺や中心市街地から概ね5km圏域での利用率が高い
- ・自転車の種類によって走行速度が違うため、自転車をひとくりにした定義付けは危険
- ・自転車交通のニーズの高まり
- ・自転車利用は車に次ぐ利用率
- ・冬期は自転車利用が車利用へ転換 高齢の利用者増加

### 環境健康増進

- ・自転車通勤を応援するイベントが開催

### 利用環境

- ・徒歩、自転車の交通手段の満足度は自動車の半分
- ・自転車、車、歩行者の空間のすみ分けがされていない
- ・徒歩、自転車利用者の不満は歩道の整備不足や自転車歩行者道の不足が原因
- ・ママチャリがないヨーロッパでの施策をそのまま秋田に当てはめるのは、利用環境が異なるため危険
- ・自転車が快適に利用できる道路のネットワーク化がなされていない
- ・「自転車走行可」という道路標識が見つからない

## 自転車利用環境の課題

### 自転車が利用しづらい環境と、事故の増加

- ・走行空間が不明確
- ・既存道路内の自転車走行時の危険箇所が存在
- ・マナー違反者に対する指導の不徹底
- ・自転車走行、駐輪に関するサインの不足

### 自転車に関する知識が不足

- ・交通事故に遭わない知恵を利用者が教わる機会がない
- ・自転車を使い捨ての道具として捉えている意識
- ・自転車利用に関する情報不足
- ・通行ルールが守られない、マナーが悪い
- ・自転車利用に関するルールの認識不足
- ・自転車に対する意識の低さ

### 利用にメリットがない環境

- ・自動車に依存したライフスタイルへの執着
- ・車から自転車への転換が進まない
- ・自転車利用者に対するメリットが乏しい
- ・自転車の楽しさを伝える行事や仕組みが少ない

「自転車が  
安全なまち」

「自転車を  
知っているまち」

「自転車で  
トクするまち」

「実現のための3つの基本方針」

# を目指して ~具体的な取り組み~

秋田市が「**安全・快適なまち**」を宣言し、自転車が安全で快適な空間を創造する

## 自転車が安全なまち

歩行者・自転車・車それぞれが安全安心な利用環境を実現し、自転車が安全・快適なまちを目指します。

- 自転車走行時の危険箇所の改善
- 自転車が利用しやすい道路のネットワーク化
- 自転車通行空間の整備
- 自転車利用に関連した標識や案内サインの充実
- 歩行者・自転車にやさしい自動車の速度規制(ゾーン30等)
- 自転車利用環境の重点整備地区の設定
- 各地区交通安全協会と地区住民の道路状況確認
- 高齢者に対する安全安心走行の啓発

## 自転車を知ってるまち

ルール・マナーや自転車の良さ、楽しみを啓発することで自転車をよく知っているまちを目指します。

- マナー向上、ルール認識のための啓蒙活動
- CO2削減のための自転車通勤等の啓発支援活動
- 自転車マップの作成(おすすめの道、安全な道、自転車店、自転車ルール、マナーを掲載)
- 自転車の楽しさ、良さを伝えるイベントの開催
- 車優先の交通意識改善の啓蒙
- 高齢者に対する安心安全走行の啓発(再掲)
- サイクルメーターのレンタル
- 秋田市独自の自転車ブランドの立ち上げ、自転車に対する意識を改革

## 自転車でトクするまち

自転車利用者に対し特典を設け自転車利用を促進し自転車でトクするまちを目指します。

- 自転車利用者に対するメリットの付加(買い物による無料駐輪券サービス等)
- レンタサイクルの導入の検討(公共施設や駐輪場での実施)
- 短時間無料駐輪場の検討
- 駐輪場のサービスステーション化(修理調整、洗車サービス)
- 公共施設、店舗などでの駐輪場の設置
- 自転車積載バス運行社会実験
- メッセージのある自転車エコバック等自転車グッズの販売

市民・行政・関係団体等が協力して実施